

# 第75回全国人権・同和教育研究大会 分科会・分散会報告一覧

第75回大会会場 色別 で表示
熊本会場
福岡会場
鹿児島会場

## 学校教育部会

### 第1分科会 「人権確立をめざす教育の創造」 10分散会

会場施設名	分散会番号	加盟人同教名	報告題名	所属	報告要旨
(熊本県) 桜十字ホールやつしろ	第1分散会	熊本	「シュウクんの小ちようが、大ちようのかわりをするのがすごいとおもいました」	山都町立蘇陽南小学校	就学前での友だちのくらしや思いを知ること、子どもたちをつなぐ大切さを学んだ報告者が、子どもがくらしをみつめ、くらしを綴ることにこだわって人権学習や命の学習に取り組んだ実践。
		佐賀	わたしをはっとさせるAさんのことば ～「せねばならない」とらわれないことの大切さ～	小城市立桜岡小学校	多彩な色の素敵な絵を描くAさん。Aさんとの出会いを通して、学校のルールや「学校あるある」など既存の考えにとらわれないことの大切さに気付いていった自分の学びについて報告します。
		徳島	「大切にしよう」とする心を育てていくために	板野町立板野保育園	保育者が園児の思いを受けとめることにより、変容していった園児や母親の姿、また保育者自身が子どもたちの姿から自らの保育を問い直し、一人一人の人権を尊重した保育をめざしていくことについて報告する。
		大阪府	みつめる みとめる ふみだす ～どんなことでも話せる なかま～	東大阪市立長瀬北小学校	今までの人間関係をくずしたくないという不安から、ふみこめずにいた子どもたちが、「このままじゃいけない」と自分をみつめ直し、変わろうとしていった。そのきっかけになったAやBを中心に、社会の不合理に気づき、行動していく子どもたちの姿を報告する。
(熊本県) 玉名市立玉陵小学校体育館	第2分散会	長崎	「お母さん、今日先生来ると?」	西海市立大崎小学校	6年生の担任となり、出会ったAさん。家庭訪問をくり返して、Aさんや保護者の思いを大切に、一緒にいる時間を作ってきた。その関わりを通して、子どもと心を聞き合う大切さや、長い期間での育ちを考えるようになった報告。
		熊本	そんなお父さんを誇りに思っています ～ひかりとはるかとの出会いを通して～	大津町立大津北中学校	両親を見つめ、差別から解放され自分の生き方を取り戻した報告者が、解放子ども会に対する発言をした子どもの思いを丁寧に聞き、語り込み、人権学習や進路公開を通して自分のあり方を見つめていった実践。
		高知	私を支えているもの～「出会い」が「生き方」になる～	高知市立高須小学校	私を変えてくれたAさんとの一年間、人生の転機となった識字学級生、Bさんとの出会い、この二つをテーマに、人権教育・同和教育との出会いが生き方にどのようにつながってきたのか、今の思いをありのままに報告する。
		大阪市	「依存」から「自立」へ	大阪市立栄小学校	家庭の悩みや友だちとの悩みでモヤモヤしてしまい、よく教室を飛び出してしまっていたレイナ。レイナが安心して過ごせる居場所を増やせるように、学校や地域が連携して取り組んだ1年間について報告します。
		奈良	真のつながりをめざして	御所市葛小中学校 小学部	心身の発達に伴い、人間関係にも変化が見られる4年生。「自己主張が強いA」、「気持ちを表現することが苦手なB」。学年当初、距離を感じていた二人がもつ「つながり」の更なる深化を目指した取組を報告する。
(熊本県) 熊本森都心プラザホール	第3分散会	長崎	「来週から行ってみようかな」	大村市立竹松小学校	小学校最後の1年間は登校につなげたいという担任としての思いをもって、Aさんと関わり始めた。しかし、Aさんや保護者の思いに触れるうちに、Aさんにとっての学校の意味を考えさせられていった報告。
		熊本	「は～い!ハル～!」	山都町立二瀬本保育園	子どものくらしを知ることで、周りの子どもたちや母親の「ハルはできない、してあげないといけな」という見方や関係性を崩すために就学前で大切にしている生活画や畑活動に取り組んだ報告。
		徳島	ちがいを認め合い一人一人が大切にされる仲間づくり ～人との出会いを通して～	徳島市北井上小学校	様々な人との出会い・交流・体験を通して、学級や社会の中にある偏見に気付き、一人一人のちがいを個性を認め合いながら、互いを大切にしよう仲間へと変容していく児童の姿を報告する。
		大阪府	「せんせつ、がっこめっちゃすき!」	箕面市立第一中学校	ネパールから編入してきたAは日本語も日本のことも全く知りませんでした。Aとクラスをつなげるとりくみを通して、Aとクラスメイトのかかわりが「共生」へと向かっていく姿を報告します。
		三重県	「お金がない。食べるものがない」 ～この地域にいたい～	松阪市立第二小学校	パキスタンから来た母親の「食べるものがない」との訴えから厳しくくらしが明らかになった。学校を中心に複数の団体の人が家族を連携してみていることで、学校だけでは到底行えなかった支援ができた実践を報告する。

(熊本県)熊本市健康文化ホール	第4分散会	長崎	水平社宣言とこれからのわたし ～「かわいそう」からの学び直し～	長崎市立南長崎小学校	「蘭学事始」を取り上げた授業後、虎松の祖父に「かわいそう」という反応が返ってきた。そこで、水平社宣言を用いた追加の授業を実践した。授業における発問の重要性や人間を「尊敬する」ことについて考えた実践。
		熊本	「わたしはインドが大好きです」	嘉島町立嘉島東小学校	報告者が人権学習教材と自分を重ねたことを子どもたちに語ったことで、インドにルーツを持つ子どもが、自分の家族、母国、母国語を誇りに思い、まわりの子に自信を持って伝え、さらになかまとしてつながっていった実践。
		香川	誰一人取り残されないために ～子どもの元気になる居場所を作りたいんや～	高松市立協和中学校	本校では、「誰一人取り残されない学校づくり」をめざしている。学校内だけでなく、地域とも連携しながら、子どもの居場所づくりに取り組んでいる。その中で、私たち教員がどう行動するかを学ぶことができた。
		東京都	差別に屈しないで生きること、自分自身を大切に生きていくこと	東京都足立区立中川北小学校	普段の関わりの中ではわからないことが人権作文の中で綴られていた。差別に屈しないで生きること、自分自身を大切に生きていくこと。そのことを大切に、子どもたちの前に立つ。そんな授業実践を報告する。
(福岡県)久留米シティプラザ グランドホール	第5分散会	福岡	思い込みをせず、粘り強く向き合う	北九州市立長行小学校	厳しい背景を抱えて登校してくる子どもたちが、安心して過ごせる教室を目指し、学級づくりを行ってきました。1年間を通して変容した子どもたちの姿と、180度変わった自分自身の考え方の変化について報告します。
		大分	自分のことが知りたい ～乳幼児期からの性教育の実践をとおして～	杵築市立大田こども園	現在社会の中で、自分を大事にできない子どもたちの姿が気になり、性教育にたどり着いた。命の誕生の仕組みや体について知ることによって自分の存在を理解し、他者の存在とつながる。自己肯定感や関係性を築く力の根っこ作りに取り組んでいる保育の実践。
		高知	「子どもの育ちと集団づくり・学校・園・所づくり」 ～友だちとつながりながら～	香南市立野市東保育所	4歳児クラスのAは、友だちとの遊びのなかで一緒に遊びたい気持ちを素直に表現できなくなっていることがあった。Aの思いをあたたく受け止めながら、言葉にすることが難しい思いは保育者が代弁することで、Aの思いが友だちに伝わる成功体験から、より友だちとのつながりを心地よく感じられるように関わっていきたくてです。
		大阪府	まちとも 街友の輪を広げよう	高槻市立若松小学校	「街友」のとくみは、子どもが主体となって、地域と協働しながら進めてきました。地域との出会いから将来展望をもち、課題解決に向けて行動する中で変容していった子どもたちの姿について報告します。
		石川	「大人が子どもを守るために必要だと思うこと」 ～2024(令和6年)能登半島地震 発災から今までとこれから～	輪島市立輪島中学校	発災後、生徒のおかれた状況にまるごと寄り添い、必要なニーズを的確に判断し、生きる権利をどう守るか、試行錯誤した様子をまとめてある。そこには、自ら考えて行動する子どもたちのたくましい姿も描かれている。
(福岡県)石橋文化センター	第6分散会	佐賀	『ぼくは、庄七と同じです。』	伊万里市立東陵中学校	「菜の花」の学習後、『ぼくは、庄七と同じです。』と感想で書いた生徒。生徒の苦悩に気づいた報告者が、授業はもとより、すべての教育活動のつながりによる学年の実践について報告します。
		大分	一人ひとりの思いが大切にされる学級をめざして	津久見市立津久見小学校	思いどおりにならないと暴言を吐いてしうAさん。Aさんがきつさや困りを素直に伝えられるような集団づくりをめざして取り組んだ実践の報告。
		徳島	希望あふれる春よ来い ～三番叟まわしの伝承に学び、つなげる取組をめざして～	東みよし町立三好中学校	三番叟まわしは、正月の家々を回って木偶を操り「希望あふれる春よ来い」と、人々に生きる勇気を運ぶ祝福芸である。東みよし町の被差別部落の人々が発信してきた、この伝統文化をテーマにした取組について報告する。
		大阪市	未来の自分をいっしょに探そう ～手紙でつながるゆうととの1年間～	大阪市立平野北中学校	1年生のころから登校が難しかったゆうとを急遽3年生の年度途中から担任として関わることになった。電話や家庭訪問にはなかなか対応してもらえない中、ポストに入れる手紙を通して少しずつ話すことができるようになり、進路につなげていった過程を報告します。
		奈良	居心地のよい教室をめざして ～温かい言葉で安心できるなかまづくり～	天理市立朝和小学校	「旅に出たいんだよ。」と、教室をあとにするA。教員がモデルとなり、子どもたちも、肯定的な受け止め方や温かい言葉を大事にしてきた。Aとみんながすこしやすしい環境、子どもたちを繋ぐしかけづくりで安心感がうまれてきた。子どもたちの変容を報告したい。
(福岡県)大牟田文化会館大ホール	第7分散会	長崎	「これからも肩貸し合ってがんばろう」 ～じぶんを語る・出会い・つながり～	佐世保市立中里中学校	新採から3年間、仲間づくりの取組を進めてきた。人権学習や自分を語る活動での生徒の姿は、私自身が自分の生き方を見つめ直すきっかけとなった。人権教育や人との出会いを通して私自身の変容にも気づいた報告。
		熊本	「家族と向き合うことで自分が変わる」 ～「来民開拓団の真相に学ぶ」部活動問題学習を通して～	山鹿市立山鹿中学校 (山鹿市人権のまちづくり推進協議会)	解放子ども会学習会で「来民開拓団の真相に学ぶ」学習に取り組む中で、生徒や保護者との関わりや様々な人との出会いがあった。自分の家族や暮らしを見つめ直し、家族の繋がりについて捉え直すことができた。
		大阪府	生徒の夢に寄り添っていきたく ～地域の支援者とともに～	大阪府立今宮工科高等学校 定時制の課程	公教育のセーフティネットでもある定時制高校。課題や背景がある生徒も通っています。その生徒たちと真摯に向き合い、進路や将来を見据えて、学校だけではなく地域と連携しながら成長を育てていった実践報告です。
		三重県	「建築を通して差別をなくすために」 ～私のなかの「軽さ」を考え続ける～	県立伊勢工業高等学校	私は建築会社に勤めた時に部落差別と出遭い、加差別側になってしまった。この経験を基に「建築を学ぶ私たちがだからこそできる反差別行動」について、私自身の振り返りや、生徒と悩みながら考えてきたことを報告する。
		新潟	外国にルーツをもつAさんとの出会い	県立十日町総合高等学校	私は部活動の顧問としてAさんとかかわる中で、小中学校で「差別」を受けたこと、友達がいるから学校に行き続けていたことを知った。スリランカと日本のダブルのAさんと家族とのかかわりから自らの学びを報告する。
(鹿児島県)カクイックス交流センター (かごしま県民交流センター)	第8分散会	鹿児島	「おれ、人間だ!」 ～子どもたちとつくる部落問題学習～	伊佐市立大口小学校	部落問題学習にとりくむなかで、自身の差別心と向き合っていく報告者。子どもとの学び合いが、自分の生き方や人とのつながりをつくる。
		徳島	人権学習をする意味	阿南市立富岡小学校	子どもたちや自分にとって「人権学習をする意味」を部落差別について学習することを通して改めて考えた。自作教材や交流から子ども自身や学級が変容し、差別解消への行動につながる「気づき」を育むことをめざした。
		大阪府	「みんなで太鼓をたたきたい」	松原市立松原第三中学校	ルーツに不安を抱えていたA。地域の子ども会のB、Cと絆を深める一方で、クラスの仲間づくりに悩み、揺れる。ある出来事から、自分や仲間と向き合い変容するAの姿と、地域と保護者、学校の連携を報告する。
		京都府	「ともに育つ学級を目指して」 ～Aとの出会いから～	福知山市立雀部小学校	自分の気持ちをコントロールすることができず仲間とつながることができずにもがいていたA、さまざまな寄り添いにより成長していくAの姿と担任としての気づきやこれからについて報告をします。

(鹿児島県)川商ホール(鹿児島市民文化ホール)	第9分散会	鹿児島	「正しく知って 正しく行動する」	鹿屋市立大始良小学校	報告者は身近な差別に関心をもとせず避けてきたが、ハンセン病回復者との出会いから自分の差別性に気づいていった。「正しく知る」ことを通して子どもたち自身が身近な差別に気づいていくとくみ。
		香川	思いを共有し、共に学び合う	東かがわ市立大内小学校	多くの出会いの中で成長する子どもたちが、お互いを認め、支え合う人間関係を築いていく力を身につけていくために、児童の特性を多様な視点から見取り、見守りながら全ての大人が共有して支援体制をつくっていく。
		大阪市	友だちと話したい ～私の本当の気持ち～	大阪市立住吉小学校	場面緘黙症と診断されたサキ。友だちと普通に会話したいができない。彼女の葛藤と担任と保護者が寄り添い取り組んできたことを報告します。
		神奈川	外国につながる子どもたちへの支援 ～神奈川の夜間定時制高校の現状報告から～	県立神奈川総合産業高等学校 定時制	報告者は公立中学校で30年勤務した後、県立高校で勤務した。中学教員時代は、外国につながる生徒たちの支援をしていた。夜間定時制に勤務して、異なる校種に勤務した経験を通じて、見えてきた課題について報告する。
(鹿児島県)宝山ホール(鹿児島県文化センター)	第10分散会	鹿児島	「シマ」を学ぶ ～「復帰運動」と「ハンセン病問題」の授業実践から～	奄美市立笠利中学校	大学時代に奄美への差別と出遭って以来、親や「シマ」の先人の思い、そして自分のアイデンティティと向きあってきた。日本復帰運動とハンセン病問題の真実から、自分を見つめるとくみを子どもたちへと繋ぐ。
		宮崎	「ひとりひとりの『学びたい』気持ちに応える チーム本庄」 ～生徒との対話をとおして～	県立本庄高等学校	様々な生活背景や発達障がい障壁となり、学習上又は学校生活上に、困難を抱える生徒たちが、人権学習をとおして他者との関わり方を学び、友人や教師との対話をとおして自己理解を深めていく。その中で生徒が自分で目標を見つけ、進路実現していく。その取り組みと生徒の変容について報告します。
		高知	こんなに居心地のいい場所はほかにはない	香美市立鏡野中学校	認め合う仲間づくりをめざした学級会を続けている。課題を抱え上手に自分を表現できない生徒にも自分の居場所がここにあることを知ってもらうため、目の前にいる生徒たちを大切に学級活動に取り組む。
		大阪市	けん、ようがんばったな ～機微の変化を見逃さない 3年間のあしあと～	大阪市立我孫子南中学校	入学当初、まわりとの距離感がつかめず困っていたけん。「特別支援学級の生徒が安心できる空間を作りたい」という思いで、かかわった3年間。寄りそい続ける中で、けんとも自分も成長していった過程を報告します。
		滋賀	「みんなと同じように、させたいんやろ？」 ～Aさんの存在から、自分を問い直す～	彦根市立佐和山小学校	何があっても見離さない。見捨てない。私とその一人になりたいと思っていたのに…。Aさんと関わり、見えてきた自分。見方、捉え方、関わり方すべてを問い直す。

## 第2分科会 「自主活動」 2分散会

会場施設名	分散会番号	加盟人同教名	報告題名	所属	報告要旨
(熊本県)熊本市国際交流会館	第1分散会	熊本	「大切なものを隠さず、ありのままの自分でいれるようになりました」	菊池市立旭志中学校	中学校の「見つけ・綴り・語る」取組を、子どもたちと向き合い、共に創っていく中で、報告者自身が家族との出会い直しを果たし、「語る」ことの価値や意味を捉えていくことができた報告。
		大分	「Aさんは、その2行を削除した。」	県立宇佐高等学校	母親から部落出身であることを告げられたA。地区学習会で学んできた自分にも立場宣言ができると信じていた。しかし、そこに立ちはだかる差別の現実。Aと本音で向き合うことで差別をなくす当事者は誰かを問い直す。
		兵庫	手話の文化から人権を考える ～鈴高 手話講習会の取組～	県立神戸鈴蘭台高等学校	補聴器をつけた生徒の入学をきっかけに、聴覚障がい者を講師とする講演会を企画し、手話を学び交流を深めました。障がい者理解からあらゆる人権について考えた取組を報告します。
		東京都	Aとともに明らかにしてきたもの	都立板橋有徳高等学校全日制	Aは「他の生徒と同じように」行動しなかった。「他の生徒と格段に違って」人権・同和教育学習に熱量を発揮した。部落研・外文研交流会にも座るAとともに明らかにしてきたものは何だったのかを報告する。
(福岡県)久留米シティプラザ 大会議室	第2分散会	熊本	「学習会には行きたいんです」	県立松橋高等学校	報告者が人権教育主任となって学習会に通うようになり、そこで出会った子どもたちと一緒に学び合いながら居場所をつくり、「反差別のなかま」としてつなぎ、子どもの隣に居続け卒業に向けて取り組んだ報告。
		福岡	「先生、諦めたらだめですよ!絶対私みたいなのがいますから!」 ～あせらず、諦めず、たゆまず、種を蒔いていこう～	県立折尾高等学校	「折尾高校に行っていなかったら、きっといまだに誰にも『在日』って話せてない。人生違ってたと思う。朝文研も本当に行っていた良かった。」卒業後のAさんが届けてくれた言葉は、くじけそうな私を今も励ましてくれます。
		徳島	一人一人が人権劇を受け継ぐ中で	阿南市立福井中学校	本校の人権劇は1984年に学習会のメンバーが「部落差別をなくすために、自分たちで取り組みたい」と始まった。現在は、人権劇をなぜするのか、どのように演じ取り組むのかを問いかけながら人権学習を進めている。
		大阪府	差別をなくすために ～つながりの中で深まる人権学習～	富田林市立第一中学校	部落問題について学ぶ事に否定的だったA。部落問題学習をきっかけに人権サークルの仲間と繋がり、部落問題について学び続けたことで差別を無くすために積極的に行動するまでに変容していった姿を報告する。

## 第3分科会 「進路・学力保障」 4分散会

会場施設名	分散会番号	加盟人同教名	報告題名	所属	報告要旨
(熊本県) 熊本市市民会館シアーズホーム大会議室	第1分散会	熊本	「試験を受けた生徒、後に続く生徒を考えると、このことを適切に会社に伝えなければいけないと思っています」 ～特別支援学校における「言わない、書かない、提出しない」と追指導の取組～	県立球磨支援学校	就職採用選考の場で不適切質問を受けた高等部3年の生徒の公正な採用選考の実現と自立に向けた卒業後の丁寧な追指導を関係機関と連携しながら、生徒の進路保障に向けて取り組んだ報告。
		福岡	「解放子ども会の子への協働子育てからの『自立自闘』をめざして」 ～小学6年生リーダー研修「人権のふるさとを訪ねる旅」のとりくみを通して～	部落解放同盟筑紫地区協議会	「部落解放運動を創造してきた先人たちの姿やふるさとに誇りをもち、自分たちが解放運動を受けついでいく」という自覚を解放子ども会の6年生に保護者と共に促し、差別と闘う仲間として団結してきた取り組みの報告。
		大阪府	それでも、社会に出るのも未来も楽しみです	泉佐野市立長南中学校	中国と韓国にルーツのあるAに、自分のルーツに誇りをもってほしいという思いでとりくみを進めました。差別のある社会に立ち向かう強さをみせるようになったAの変容、そして、集団の変容について報告します。
		京都府	「生徒の成長を包み込んで共に育つ学校」	亀岡市立亀岡中学校	教室に入るのできなかったAが、仲間と出会い、人との関わりの中でどのような成長をしているのかを振り返り、希望進路の実現に向けた現在進行形の報告をします。
(熊本県) 玉名市立玉陵中学校体育館	第2分散会	熊本	僕は生きていくのが不安だ ～高校卒業5年後のインタビューから～	県立湧心館高等学校定時制 (熊本高教組同研)	難聴のAと高校卒業5年後に再会し、高校時代を含めて今までの半生を聞き取り、自分自身や学校のありようを振り返り、みつめ直した報告。
		高知	Aが私に教えてくれたこと	高知市立春野西小学校	なかなか学校生活になじめず、落ち着きのない行動が目についたAが、個に応じた学習支援とともに仲間の温かい関係性のなかで、自分の居場所を見出し、変容していく姿からの学びを振り返って報告しました。
		大阪市	「なあ先生、…」 ～毎日の家庭訪問から感じたユウキの変化～	大阪市立鶴見橋中学校	ユウキは1年生の途中から学校に来ることができなくなってしまいました。教員をはじめ、保護者や友だちとの関わりを大切に、どうすれば学校に来ることができののかを考えてきました。「家庭訪問」という一つの支援から、ユウキ自身が自立をめざして取り組んだことで少しずつ変化が見られた様子を報告します。
		滋賀	「ほんまに帰るしな!ええねんな!」 ～Aさんから私が問われたこと～	湖南市立岩根小学校	Aさんとの関わりを振り返り、「教師」という立場に逃げ、Aさんと真正面から向き合いきれなかったことを反省した。そして、「教育」「教師」についてもう一度自らに問い、自分の立ち位置を見つめなおした。
(福岡県) 大牟田文化会館小ホール	第3分散会	福岡	Aの学びと進路保障をめざして ～地区学習会と生活つづり方のとりくみを通して～	築上町立下城井小学校	自分の思いを出せず、学校を休みがちだったAにかかわるようになった担当者が、学校や地区学習会で生活つづり方に取り組むことにより、AやAの母親とつながり、それぞれが変容していく姿をレポートします。
		香川	互いに支えあえる探究活動をととして	県立三木高等学校	中学校時代に不登校やいじめにあった、あいさん(1年生・16歳)とはるさん(1年生・16歳)が、本校の探究活動を通して成長し、周囲のなかまや教職員の協力を得て徐々に自信を取り戻していく報告である。
		奈良	「家族以外と会話する機会を頂きありがとうございます」	大和高田市立高田西中学校	年々増加傾向にある不登校問題。2021年度に担当した学級に在籍したAやAのご家族に寄り添ったことについて報告する。自身の気づきや苦悩、葛藤なども報告の中で聞いていただきながら、参加者のみなさんとともに喫緊の課題として考え合う場にした。
		滋賀	「だから私、学校行かんかったんよ」 ～一人の人間として、人と関わるということ～	甲良町立甲良西小学校・ 子どもを守り育てる会「竹友」	母校である小学校で5年生の担任を任せられ、私はAと出会った。卒業後Aが中学校での葛藤を経験し、始動者(しどうしゃ)として地域が主催する人権合宿に参加するまでに至る経緯を、私自身の葛藤や学びと共にレポートしていく。
(鹿児島県) 鹿児島大学福盛会館	第4分散会	鹿児島	専門高校における葛藤と進路保障 ～学級担任としてのかかわりから～	県立鹿児島水産高等学校	生きづらさを感じながらも学校生活や検定、就職試験にひたむきな3人の子どもたちと卒業まで向きあった日々。子どもたちの姿に、それまで行ってきた「教育」や自分自身のありようを問い直していった。
		徳島	人権尊重社会の実現をめざすために	県立徳島科学技術高等学校定時制課程	定時制高校における教員と生徒のかかわりとおして、教員は人権教育をいかに実践し、人権尊重社会の実現に寄与するべきかを考える。
		大阪府	いつもそばに なかまがいるから ～ひとりじゃないよ～	堺市立陵西中学校	自分に自信が持てず、すぐにあきらめてしまうA。でも、いつもそばにはAを支えるなかまがいた。なかまと一緒に「やってみよう」と思えた経験が今のAの生き方につながり、新たな場所で活躍する姿を報告する。
		京都市	「社会をたくましく生き抜くための資質・能力の育成」をめざして	京都市立向島藤の木小学校	本校では、「社会をたくましく生き抜くために必要な資質・能力の育成」をめざし、児童主体の教育を進めています。対話力等の向上を狙った「ユニット制」「チーム担任制」、日々の「授業改善」について報告します。

# 社会教育部会

## 第4分科会 「人権確立をめざすまちづくり」 4分散会

会場施設名	分散会番号	加盟人同教名	報告題名	所属	報告要旨
(熊本県) 八代市公民館(パトリア千丁)	第1分散会	熊本	『人権NPOちなもい』20年間のあゆみから	非特定営利法人人権NPOちなもい(八代地区人権同和教育研究協議会)	八代地域に人権文化を根付かせていくために、2003年に「人権NPOちなもい」を発足した。それまでの部落解放運動と同和教育が築き上げてきた経験と実績を受け継ぎ、地域が一体となって進めてきた取組の報告。
		福岡	同和問題をこれからも学び続けていきたい ～「学びをつなぐ講座」の取り組みを通して学んだこと～	筑紫野市「学びをつなぐ講座」代表	市民の一人が部落差別と出会い、それをきっかけに同和問題の学習を始めた。同和地区の女性部との交流を通して自らの認識を問い直し変革していった。仲間と共に学んで良かったことや学ぶことの大切さを報告する。
		香川	人権啓発推進委員とともに進める人権研修事業	東かがわ市総務部人権推進課 東かがわ市人権啓発推進委員	研修の助言者である人権啓発推進委員は、受け継いだ差別の現状や想いを伝える本研修事業にはなくてはならない存在である。今後は、人権啓発推進委員とともに、民間企業や子育て世代へ研修・交流事業を拡げていきたい。
		滋賀	「みんな一緒に差別をなくす側になれたらいいのにな」 ～私たちが部落解放長寺小6合宿をやり続ける意味～	部落解放長寺子どもを守り育てる会	子どもたちの進路保障を目的とした「部落解放長寺子どもを守り育てる会」が『差別を見抜く、許さない、負けない』を掲げ、1977年から続けている小6合宿を軸に、報告者の差別体験を絡めながら、今後の合宿の方向性を考えていく。
(熊本県) くまもと県民交流会館パレア	第2分散会	熊本	識字学級と共に40年	菊陽町識字学級	1984年に「識字」と出会った報告者が、作品展示会や読み聞かせ等の取り組み、くらしの中にある差別の現実と直面したこと、他県の識字学級との交流や出会いなど、なかまとともに歩み続けてきた40年間を振り返った報告。
		熊本	「レイちゃん、はなかつぱのパンツのときわらっていたね」	山都町立金内保育園	子どもたちのかかわりあう姿を通して、「共にすごす」「一人ひとりを大切にする保育」とは何なのか、自分の保育内容や言葉かけがどうなのかを問い直しながら取り組んだ実践報告
		高知	寝た子を起こしたい	黒潮町人権教育研究協議会	同和地区出身である石井さん。自身が高校時代に「友の会」にて経験した事象、そのことから感じたこと、また、それからの自身の人権に対する取り組みを報告します。
		和歌山	二人の想いは、すべての人の想い	岩橋夜間学校・和歌山自主夜間中学校(和歌山市立和佐小学校)	公立夜間中学校が2025年4月開校します。今振り返ってみるとたくさんの出会いがありました。その出会いの中から学ばせてもらったことを振り返りながらレポートします。特に生徒さん2人からは私の人生の方向を示していただいた想いです。
(福岡県) 久留米シティプラザ 久留米座	第3分散会	熊本	「言いたくないけど、知ってほしい」	荒尾市教育委員会教育振興課(荒尾市同和教育研究協議会)	自分の家族の形をマイナスにとらえて育ってきたソーシャルワーカーである報告者が、同和教育とてあい、自分にとって言いにくいと思っていたことが実は自分にとって宝物だったと気づくまでの報告。
		福岡	「人権のまちづくり」の確かさと広がり求めて	久留米市人権・同和教育研究協議会 社会人権・同和教育部会	部落の子どもたちの学力保障を起点にした人権のまちづくり。中心行事である人権フェスタの人権劇を通して、そこに集う部落内外の住民で、地元の部落差別との闘いの歴史を確認してきたとくみを報告します。
		高知	「おなかも心も満たす地域(わたしたち)の居場所」	長岡西部スマイルファクトリー	地域活性や行事の企画運営、子どもの健全育成、人権擁護や伝統文化の継承などに取り組んでいる長岡西部スマイルファクトリーが昨年度より取り組んでいるテーマが「食」。地域の課題解決をめざして開設した、おなかも心も満たす「スマイルこども食堂」について紹介する。
		鳥取	「外国人介護者が働きやすい職場づくり」	社会福祉法人敬仁会	介護業界は深刻な人手不足にあり、当法人は2018年より外国人介護者の受け入れを行ってきました。互いが良好な関係を築くため、働きやすい職場とするため実践してきたことや職場の変化について報告します。
(鹿児島県) かごしま国際交流センター	第4分散会	鹿児島	「みんなで行くところがうね!!」	しょうがい児にも教育上の権利を「こんべいとう」	「本当に困っていることはどこでも出せない」という保護者の思いから、障碍(しょうがい)のある子どもたちを中心とした居場所づくりにとりくむ。率直に思いを語るつながりと、子どもたちが安心して自分らしく過ごせる社会の実現をめざして。
		熊本	「部落差別事件とどう向き合ったか」	菊池市人権啓発・男女共同参画推進課 地域人権教育指導員	菊池市で起きた部落差別事件について、行政の対応を検証する中で問われたのは、根本である私たちの部落問題認識であった。「おきたらどうするか」ではなく、「おきないためにどうするか」へ意識を変えて取組を始めた。
		奈良	「はっとぐっとほっと」の取組から	奈良県人権教育推進協議会 専門委員会『なかま』研究部	『なかま』研究部では、県内の地域をめぐり人権スポットを発掘する活動をしている。地域の歴史を再発見し、そこに生きた人びとの繋がりと思いや願いを共感し、心豊かに暮らすことのできる「人権尊重のまちづくり」をめざした活動の報告。
		千葉	「最近の部落研は楽しい!」	東葛同和教育研究会	部落研の司会者として、自分を語り被差別の当事者の語りを大切にしている。語り合うことで、各々の課題を深める活動で得た発見を報告する。
		三重	大山田「ちくこん」30年を創りあげてきた仲間を思う	伊賀市役所地域連携部大山田支所	「ちくこん」を実施してきて30年。差別をなくす主体者であるスタッフの中核を担う公務員の意識と姿勢に変化が見えてきた。これまで出会った3人の市職員に思いを馳せ、再度「ちくこん」に向き合う自身を問う。